未来記

別13
25
28

別圖
19

国立国会図書館　タイトル『未来記』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

13-28

未来記

さるあひだ平家ほろびまの世くそうぢやうけと云ところへよれしくかのひ落ひまり天下をおさめんをうあわ兵法者いこのたりるこ世そもしく兵法とやい三略のあるかりむしうこうせうむのそうけいう作こんし元ちよりきびの大臣へ唐ー八十二巻う中ちうを二十二でうはねきうんへく我物へ渡し城さうのうへの里ちんの九年三月よるこ元天下をおさめあ法上形ち相をあお

帝国図書館

国立国会図書館 タイトル『未来記』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

四月初九十二年三月下旬なるひあるさらの山乃
うれはしてきくか山のそで屏うるけき
と城こいらけめをもの門めぬ殆を梅を桜
ますこと　えいざんかくあられしを白川
めんじつものとうるみとせとを
さうゆいるうさうの間うわつ
とのはさむうく城ちこ四くたまれえぐを
はるひは月をうるめ殆みなり

国立国会図書館　タイトル『未来記』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

家ふ天ゑ地さうあ門まりてうり合詳定まう
やう格尚山をちくくいしのむちよとして
まうゆんうくでんぶ山へかうふ者をなうり
ちふらくまのてくの半着う我ふう伯家城あざ
きくく事そのいくくまさうきの城いぶやてんを
のやうちつ城あてむるんくやあてでれ山
のた郎城すくえいでくやまうを我をしくぶ
ちごふようすて親ゆを神おもふううまは
てんぞのやうぶつ城あうふ魚は達ともぶも
きう風うのをうあふ兵法をいあのたりあく

平野の山のたてんぐをを見おくやまをんを
まくうのいあう城てんぐといふをいて建を
黄い人まてうひしう佛法をよくあうひまれ
うう外のちしやるとぶいまんじを打て
をゆへ仏ゆけるうんして天をうう出る
なりたうひまんしを打てあのみちへ
あううをを精城いくくあうけうあきいやや
うまるうりかうまよくくしてんくの法城
ゆくくはやのううきをうさせんむちうへて
ゝてむ孫とのてんぐせ八人わうやまがに

国立国会図書館　タイトル『未来記』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

いてきくうわさのくそだふゆきいろみお
人きこしめせばあらう人すむ所れりんを
ゆいくあるく事もくゆあるひ りんやかんと
こそ中巻終

国立国会図書館　タイトル『未来記』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

うしろのハさうしゆ　さとの乃ゆ面のあらあらきとおかめられ
きくかとゝ小山伏乃かくしよのうそとをきう
ぬやゝ城ゆきふうき若かゝけていりいりを
まそうわう城ぐそくもちそあゆ屋くれ
かゝめられきくかとゝ小山のきゝきとれこ
うちうんきいかくとそびへくくんがくえと
とうくへていれせうえうんようさうんかうは
うゝすかひうそうばくくせうくくみうか
ゆうゝ勝乃書きいくくと記くき器ゐとく

ゆをとゝ毛やゆくくよ志ゆやうはやうせんのきこと
とくはんうくうくうくうる家いかんうなくひ
よくいでん玉城みうき孫屋にしめきくくを
ゆう孫九ちうのうういい雲ふそびへ陽中ひひ
をなくへゆくくもんくいうかをゆくけたり
かりくめくたき清右のゆせむめくうあり
きりと思石逮きう猫ふそくうらて書う
まれ　うを書うとくうふを大城代家屋う
むよゝの大志四百人をうりうう記ぬてくん
きんかうの指ゆそ記志ふようちやくきんくと

きんらん城ちゝへはなちゝかりーさーさ
ありうしわるとものを見まいらせるきんを
とゝめちうーやうやちうの度上りすへ
奉見さんうの心ちゝく城とゝのへちんきう
どけくしてもてる寸乱舞ふる美人ちんを
見きをそらーのくるひ奉てんろのりの
上座ともむちんのきゝくをはくて家城せん
とゝそあそひ者ゝ老僧うちゆさ連者ゝい趙
計てこと遊くあきう源平乃合戦のちのを
よあゝあきをかのて知くちんあゝ也か人れ

はをてるーよ歯ゝびてはめようけようしよ
暴ゝとやてゆゝちげうゝてんをゝ老い平家
乃大将あきけゝきゝよりりと名家くをゝ見弟
あきのいい月をし面の的弟れはちゝらひり
よ里はゝあのよ城いまゝりおきむへて平家
よ野ん乃をものあゝは敗のうゝめけ重へゝん
さゝまゝさいをうゝしまへるゝを為ゝかう
まうをはとは乃こきゝうにこめ奉見きよをゝ
ちゝおたゝんちゝやうーいん上一門六十三人いい月
連をゝらんゝくををかゝあゝ為ー　墳ゝ二男ゝ

さう乃大臣　まこいこくこう　あるひは
百そうん　けい高う也　あ姫迷ぎんぐのすえ
くゝたゞ孫をたゞくゝ　ゆるがをへし　黄帝に敵
うこともるとゆけきとこりくてゞかまらく
大佛殿よ火をうけよ　ゆるとゆくゆけ
るうてんをうぐ三うの中ねこげひゝとゝ業
て三ゝ金鶏をそゝしなんとゝをゝうせて
大仏殿を焼たらゝ　数日のはとうあゝく
してゝゝふゝやきよりゝむの病をうけゝ
て世う移ゝ地ぢそのかるやのかむゝもゆく

いてまきうゝ色きあゝあゝやかるゝ　焼てまゝ
迷死よ　ちんうゝとゝあゝやうよきよりゝけきや
一期城うゝくゝゝとゝ

そもそも是は平家の代つぎたるむ孫ありとて家の
てをもつてをおうみわそこいのしやうぞくをめてゆく
ものをみてさしをきみつぎやりんしの記き
此時伊豆の国中へなりさきて軍勢をこと
れいの門のもくこいやまをうりきて山
ようてをはく大場の三郎を家ていりて
やまををひはもと軍勢を道七騎まて武蔵
国へはらをみかうのろうちあようふんをいり
きて波をひうをせつくこうをきらをを来国
はうをきゆくこうの門をををすくへをを世

国立国会図書館　タイトル『未来記』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

こうちやくこうはけてゆらんを重代相伝され
清盛二十八万七千余騎そこのゝしにあひうのび
けせんぢんいさぐこのゆふかたをやしうう
よ京をうて新編倉とさくめく寄る伝落ち值
人よきそのらんしやうるい平家をせ
めんそのうめうゆふ万余騎をそのしあーぢ
をさーてせあのりう　こうやこまちかきこら
せん　ひうらゝ城よりんをとる平家ゝ人こ
きも城きーれこゝきさいき落ひて十万余騎
そ松をこう　をにの国とかやあうち城あく

てちのめゆうらあえうくれやまよりんを
とんぎんぢいんこやうのあうこをう
こうら　さうなく落ましうりしをあう人れ
たはうりにやうあをのせき城あられこら
へあ神くゆら落ゆ平家あこうりせあはくく
か賀乃国ゆのりあくうのたうひき天地を
ゑくこうりゆあくをこーあうあまけて
か賀越中のゆこうひうるこ屋より伊を
とう平家の人こうゆふのりうのやまへせあ
のりうを時ぎんぢのを弥八橋大りさうれは

そろそろひよりをうかがひ平家三万六千余騎一騎
うちよりまぎれうのたかのうちまとかろひ
きりまはりけるのりりーをぎんぶ沒ろり
せあはせくをあいけかをあさまきんさ紙とり
てそろうるふくりのきやうみあらをみ

国立国会図書館　タイトル『未来記』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

さう間よりゐのいきそれはせいこうこうゐき
よれ給ひくるとうよ給ひけりきてよ城そむく
ゐきとこいさうゐ　ゐいしのけきちんさん
かみさけひありきにうゐきにうかる源氏
ひまきさふう江湖ふふさあきてこもれうへ
なきゐ　ふりとをけゐ給きて城海か
らんこあよこそこうなこうやこれしめこた
あき南天下城ゐやまた幸かきひくをう
ひこうへその城よてこるこいそ紀角
城のかせんとそ大給みはうもれはこうし

のりゐ重あのうしこうきんぬくして九郎
義経と兄宗ゐ半弓ゐを付らまのたりん
いせひまやうしやまりちゐあ移ひ弓ゐ
ひすゐ城こふとりこそきんこうをあこそ
きくうひ家をけくゐきこりを時のりこり義
経ゐ大給と定め　こやこへせめく　のりり
へ　ひさんゐれこうるきてんがのめく
まきてこうゐひこち弓矢のきゐをすこゐこそて
あそばかこてこうこうゐ　義経於れきい
ことして三経ひ弁慶こくゆへこくこやこみ

やーゝさんとみくさのうけひえとりあえ
かゝめくとまいる平家こらへ
てぎやう戦場ばかりのふいを西海のあら海のせき
うんのうゝさもとをもうあきさて二位殿せん
ていむ称りをたゝめ奉りをいけ三男六ふ
ようきあのあんとさくさもの屋ら
ふうしゝとの兄にあくまを連ふ者ようぐ
りゝうゝろゆゝをべゝに兄弟のあら梅を
あらはその身のうんいはくをきあり六ゝん
ふをありてさむやうのあるいこのあゝ

別13
25
28

あるまてすゑをはをゝゆるなりさてをはい
ちゝわなりあまをまそおんまりゝせて對面ゝ
ちゝゝゆゑ天狗のやう城ゆゝをなりあまを城
面かりかけよとそゝろゝ称のゝ海城とり
制ゝうわゝとのかゝ事ゝ世そうきけすやう
かうせを事ゝゝとゝろゝをかうせて僧正が
ちけるゝ松のえゝまそおれゝ事ゝ梅いてん
ぐゝうゝゝゝをゝゝへ事ゝゝまゝ御ゝそ
とゝゝ言うかゝへゝらゝく

国立国会図書館　タイトル『未来記』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『未来記』 請求記号 本別13-28

ガラス使用